

高台寺付近にあるこの庭は、ねねの居館である。石組は桃山時代の絢爛豪華さを表していて、二条城、名古屋城二の丸や徳島城千秋閣に類似している。繰り返される三尊石組がパターン化の傾向にあり、枯滝石組は中心となる要が不明のため求心力が失われ、散漫な印象を受けるが、この時代の美学である。目を引くのは鶴島と亀島に架かる分厚い石橋だ。桃山時代になると神聖たるべき蓬莱島へ橋が架けられるようになる。その背景としては既に天下人となった武将は蓬莱島を理想の島とは考えなくなったためである。秀吉が伏見城で楽しんだ様がよく分かる一品。



L型に築山を築き巨石を所狭しと並べている



安土桃山時代の豪華絢爛たる庭

